

## <令和4年度将棋同好会活動報告第一報>

令和4年6月7日  
将棋同好会世話人  
小黒光昭

新型コロナ感染防止の観点から自粛していた鐘華会本社支部将棋同好会活動を、4月度から自粛解除し、再開した。今後も毎月最終月曜日12時ごろからカカブクラブ会議室にて継続実施を予定している。手指の消毒、マスク着用必須の上、極力無言対局を心がけ感染防止に注力する。

### (4月25日)

本日の参加者は、小黒、橋本、出井の3名と、当同好会スタート時のメンバーに変更無し。今後も将棋愛好者の勧誘に努める。

#### ○小黒-橋本戦 橋本の勝ち

通常通り、相居飛車での角交換相掛かり戦。序盤での小黒の模様取りが悪く、橋本の攻めに対抗できず、ズルズルと形勢を損ね、小黒が良い所なく押し切られた。

#### ○橋本-出井戦

一局目で異変が発生。通常通り出井の振り飛車(三間飛車)、橋本の居飛車対抗型の戦いで始まったが、ある時点で出井が、橋本の玉頭の筋に香を打ち、攻勢を見せそのまま数手進め出井やや有利か、と思わせた。ところが、この場面で橋本が、出井の放った香がどの場面で出井の手駒になったのか疑問に思い出井に確認を促した。「その香はどこからきたの?」。なんと、出井の玉側の香が盤から落ち、そのまま持ち駒として駒台に乗せられ、誰も気づかないうちに持ち駒として使われたものであった。無論反則である。反則は本来、即刻「負け」であるが、本局は「指し直し」の処置とした。

指し直し局は、出井は四間飛車穴熊囲い、橋本は通常の居飛車で対抗。序盤は橋本の早い攻めが功を奏し圧倒的に有利と思われる局面が続いたが、出井は「穴熊」という堅い守りを最大限に有効に手を進め、「攻め合い」の形に持ち込み最後に追いつき追い越し粘り勝ちとなった。

## (5月30日)

本日の参加も、固定の3名。囲碁同好会も活動されていた。

### ○小黒-橋本戦 橋本の勝ち

4月と同様、相居飛車の戦いとなった。このところ、小黒の序盤の駒組みに問題がありそうで、橋本の攻めに先行されるケースが多く、本日もそのまま、先行され、逆襲する場面もなくあっけなく負けとなった。小黒の奮起を期待したい。

### ○出井-橋本戦 出井の勝ち

出井は4月度の穴熊作戦で味を占めたと見え、本日も振り飛車穴熊で橋本戦に臨んだ。先月と同じように序盤は橋本の早い攻めが出井陣を食い破り、誰の目にも橋本の勝ちにみえる場面から、粘り強い「守り&細い攻め」を繰り返し、いつの間にか追いつき、追い越し、またも勝利した。出井の「細く見える攻め」に橋本が弱気になり「受けに回った」タイミングにその受けを上回る攻め手を発見され、逆転されたようだ。

### ○出井-小黒戦

カホクラブ 退出時間内に終了出来ず、決着は次回6月度に持越し。出井の四間飛車に対し、小黒は5七金戦法を採用、小黒の速攻がうまく決まり優勢に進んだかに見えたが、出井の逆襲も効果的で、先の見通せない終盤に指しかかっている。

## (次回は6月27日)

### ○プロ将棋界ニュース

(株)カホ 出口執行役員の御子息のプロ将棋棋士出口6段は、令和3年度の成績が目覚ましく、活躍が目立つ。今回、将棋界の「8大タイトル戦」の一つである「叡王戦」の予選を勝ち抜き、現叡王である藤井聡太叡王への挑戦者となりチャレンジしたが、力及ばず3連敗でタイトル奪取はできなかった。まだ26歳の若手であり、更なる今後の鍛錬と活躍を期待したい。本年度、順位戦でC1級からB2級に昇級を果たし、なんとか早くA級で活躍できるところまで将棋の力、知名度を上げてほしいものです。